

にこにこ きらきら ゆめにむかって



# おともがわ

学校報 No.41

保護者版

平成 29 年 12 月 15 日

みんなで育む豊かな心・健やかな体・確かな学力

## 「ほめる言葉」のプレゼントを

12月はいしめくりの月、この一年を振り返る時期です。「学校評価アンケート」を先日お願いしましたが、私たち職員も、「UCHI ナビ」で示した目標にどれだけ近づいているか、これまでの実践を振り返る時期です。アンケートに書かれた保護者の皆様からのご意見を真摯に受け止め、これまでの取組を振り返るとともに、後期後半の取組に活かしていきたいと考えています。

子どもの心を育て、力を伸ばすために大切なこと、それは「自信」をつけてあげることだと思います。子どもたち一人一人には、頑張ったことやできるようになったことが色々あるはずで、子どもの姿をよく見つめ、どんな小さなよさでも、ほめて認めてあげることによって「自信」につなげていきたいものです。ご家庭では、お手伝いなど、継続して取り組み、習慣化していることを大いにほめてあげてください。「自信」は、次への意欲はもちろん、さらなる力の発揮にもつながります。

低学年の子どもたちは膝の上に抱っこして、中・高学年の子どもたちには手を取って向き合いながら、お子さんの成長に対する親の喜びを、「〇〇ができるようになってすごいね。」と温かい言葉を添えながら、子どもの心とふれあいたいものです。

もうすぐクリスマス。子どもの「自信」につながる「ほめる言葉」のプレゼントを、子どもの心に届けましょう。きっと、笑顔いっぱい瞳を輝かせてくれることでしょう。

## 「パフォーマンス集会」～公の場で表現できるように～

本県が目指す児童像に“「問い」を発する子ども”の育成があります。その具体的な姿は、「公共の場で自分の意見を堂々と述べるができる児童生徒」でした。“でした”というのは、今はそれが「問題を発見し、他者との関わりを通して主体的に問題を解決していく児童生徒」に深化してきているからです。いずれにしても、引っ込み思案で公共の場で遠慮してしまうという県民性はよく言われることだと思います。

12日に行われた「パフォーマンス集会」では、全校の前で堂々と発表できている子どもたちの姿が見られました。引っ込み思案の改善には、公の場を多く経験させることが大切なことです。今回は、各学年からの発表でしたが、やりたい人がやる、というようなより自主的な集会を目指せば、その意味がより濃くなるのではないかと思います。楽しい一時間でした。



